

保護者の皆さま

吹田市立山田第五小学校
校長 眞部 美保

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として行った「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果、9月下旬に個人ごとにお返ししています。また、吹田市でも今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査結果の分析を通して、教育活動の成果と課題を検証し改善を図っていくことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、教育指導の充実や学習状況の改善等を行い、児童が「見方・考え方」を働かせ、学力向上につながるような授業づくり等、より具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。そして、児童の確かな学力を育むことにつなげてまいります。各ご家庭におかれましては、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語〈概要〉

本校児童の平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、全国値を上回っているが、「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」「記述式」の領域では全国値をやや下回っている。

●国語〈各領域における成果と課題と、指導改善のポイント〉

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・正答率は、全国値を上回っている。
- ・漢字を文の中で正しく使うことが大変よくできている。
- ・文の中における、主語と述語の関係を捉えることが苦手である。

情報の扱い方に関する事項

- ・正答率は全国平均をやや下回っている。
- ・情報と情報の関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことが苦手である。

我が国の言語文化に関する事項

- ・正答率は全国平均を上回っている。
- ・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つと気づくことができている。

話すこと・聞くこと

- ・正答率は、全国値を上回っている。
- ・資料を活用しながら、どのように表現を工夫したらよいか考えることができている。

書くこと

- ・正答率は、全国値を上回っている。
- ・目的や意図に応じた、自分の伝えたいことを明確にすることができている。
- ・自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができている。

読むこと

- ・正答率は、全国値をやや下回っている。
- ・無回答率が全国平均より大きく上回っている。
- ・物語に出てくる、登場人物の関係や心情を捉えることができている。
- ・人物像を具体的に想像することがやや苦手である。
- ・物語を読んで、心に残ったところやその理由をまとめて書くことが苦手である。

●国語科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①文章と資料を結び付けて読むこと、そこから自分の考えをまとめること。
- ②文の構成を理解し、文の中における主語・述語の関係を捉えること。

◇指導改善のポイント

- ※読み物教材や読書活動の時に、自分の考えを持つ機会を増やしたり、話を要約する練習をしたりする機会を設ける。
- ※「自分の考えをまとめる」ということに対しては、日々の授業において、自分の考えを持ったり話し合いの機会を意図的に設定したりし、自分とは異なる視点や意見を取り入れ、自分の意見を構築し、整理する活動を行う。
- ※日頃から話すときに文章の構成を意識したり「主語・述語」に関係するプリントを行ったりし、習得を目指す。(朝モジュール等を活用する)

●算数《概要》

・本校児童の平均正答率は、「数と計算」「図形」「データの活用」において全国値を上回っているが、「変化と関係」においては全国値をやや下回っている。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・全国値を上回っている。
- ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表したり、□を使った式を用いたりすることができている。
- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを書くことができている。
- ・除数が小数である場合の除法の計算ができている。
- ・示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表すことができている。

図形

- ・全国値を上回っている。
- ・見取り図や展開図について理解し、かくことができている。
- ・球の直径と立方体の一辺長さの関係を捉え、立方体の体積を求める式を書くことができている。
- ・角柱の底面や側面に着目し、面の数とその理由を言葉と数を用いて書くことができている。

変化と関係

- ・全国値をやや下回っている。
- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考えることができている。
- ・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断しその理由を記述することに課題がある。
- ・速さの意味について理解することに課題がある。

データの活用

- ・全国値を上回っている。
- ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができている。
- ・簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して分類整理することができている。
- ・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することができている。
- ・示された情報を基に、表から必要な数値を読み取ることができている。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①速さを求める問題において、速さ・道のり・時間の関係を理解し、正しい答えを求めること。

◇指導の改善ポイント

- ※関連している単元の時に既習内容の課題を振り返る。
- ※学習の際に、生活の場面と関連付けて考えさせ、日常生活においても算数の有用性に触れ、量感を伴う学習につなげていく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・毎日朝食を食べている児童の割合は 100%である。
- ・毎日決まった時刻に就寝している児童の割合は大阪府・全国値をやや下回っている。
- ・毎日決まった時刻に起床している児童の割合は全国値をやや下回っている。
- ・勉強に ICT 機器を使用している児童の割合は、30 分より少ないが最も多く、2 時間以上の割合は 0%である。
- ・テレビゲームをする児童の割合は、1 時間より少ないが最も多く、全国値に比べて大幅に少ない。
- ・携帯やスマートフォンで動画視聴をする児童の割合は携帯やスマートフォンを持っていないが最も多く、全国値に比べて動画視聴をする時間が大幅に少ない。
- ・自分には良いところがあるという自己肯定感を持つ児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・先生が自分の良いところを認めてくれるかという質問に肯定的な回答をした児童は全国値を上回っている。
- ・将来の夢や目標を持っている児童は、大阪府・全国値とほぼ同じである。
- ・人が困っているときはすすんで助けている児童の割合は 100%である。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないと回答した児童の割合は 100%である。
- ・学校に行くのが楽しいと思う児童は、全国値を下回っている。
- ・友達関係に満足しているという回答をした児童の割合は大阪府・全国値をやや下回っている。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫していると回答した児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・学校の授業時間以外で勉強をしている時間が全国値よりやや短い。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うかという質問に肯定的な回答をした児童は大阪府・全国値をやや上回っている。

【教科・学習について】

- ・授業で、コンピュータなどの ICT 機器を使ったのは「週 3 回以上」「毎日」という回答を合わせると 93%で、全国値を 34%以上、上回っている。
- ・学校でコンピュータなどの ICT 機器を使うことで友達と協力しながら学習を進めることができるという質問への肯定的解答は大阪府・全国値をやや上回っている。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童は、大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているかという質問に肯定的な回答をした児童は 97%で、大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童は大阪府、全国値を上回っている。
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができるという質問に肯定的な回答をした児童の割合は 100%である。
- ・学級をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めているという質問に肯定的な回答をした児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・国語の授業が好きだと思っている児童は、大阪府・全国値を大きく下回っているが、大切だと思っている児童の割合は 100%である。
- ・国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている児童が、大阪府・全国値をやや上回っている。
- ・算数の授業が好きだと思っている児童は全国値を大きく上回っており、大切だと思っている児童の割合は 100%である。
- ・算数の授業の内容がよくわかると回答した児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるかという質問に肯定的な回答をした児童の割合は全国値とほぼ同じである。
- ・今回の学力テストで、回答を文章で書く問題に最後まで解答を書こうと努力した児童が、全国値より国語では約 10%、算数では約 5%上回った。

3 今後の取り組み

本校では、「自ら考え 主体的に活動する 優しくたくましい子を育てる」を教育目標とし、「よく考える子、助け合う子、元気な子」を目指す子ども像に掲げ、日々教育活動に取り組んでおります。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、『山五漢字検定』に引き続き取り組んでいます。また「読書大好き児童」を育てるため、学校図書(蔵書約 10,000 冊)や学級文庫を充実させると共に、2年生から6年生までモジュールの時間に読書の時間を設けたり、1,2年生は図書の時間を設けたりしています。図書に関する企画としておすすめの本を紹介する「ビブリオカップ」も昨年度は年3回行いました。

算数科においては、一人ひとりを細かく見ていくための少人数指導や、計算力の定着を図るための『ダイヤモンド大作戦』を引き続き実施していきます。なお、ダイヤモンドは本校児童の課題に合わせて、改訂しています。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう「チャイムと同時に授業を始める」「指名された時返事をする」「プリントなどに名前をていねいに書く」「授業中先生に敬語で話す」「移動時はいすや机を整頓する」「下敷き・定規や先のとがった鉛筆を使う」といった学習規律の指導にも力を入れて取り組んでいます。

本校独自のモジュールやパワーアップタイム(PUT)では、各クラス様々な内容で児童の基礎学力や能力向上を目指しています。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」といった、主体的、対話的で深い学びにつながるよう、工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めて参ります。

生活習慣に関する結果からは、規則正しい生活を心掛ける必要があることが分かります。また、タブレット、スマートフォンを使用することで犯罪などに巻き込まれないためにも、使用方法や時間を決めるなどのルール作りをしていくことが大切です。一人1台タブレットを利用できる今、学校でも、全学年「携帯電話安全教室」を開き、自らルールを守りながら、正しく使用していく大切さを伝えています。ご家庭でも、正しく使用する方法を話し合っ、取り組んでほしいと思います。

学習環境に関する結果からは、ものごとを最後までやり遂げることに喜びを感じる児童が多数いることが分かりました。一人ひとりが更に成長していくためにも、「将来の夢や目標をもち、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する気持ち」をもつことが大切であると考えます。また、新聞やニュース、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持つことも子どもの心身の成長につながると考えています。

教科・学習に関する結果からは、国語・算数の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童が多いことが分かりました。その気持ちを大切に、一人ひとりの児童に応じた学力の向上を目指していきます。

「19.普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」は昨年度から設定された質問で、本校児童は肯定的な回答をしている児童が96%となっています。これはウェルビーイング「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」「個人を取り巻く場や地域社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあること」が確保されているということで、児童の成長にとって大変重要な要素となります。自己肯定感も全国と比べても大変高いです。

引き続き授業等の学級活動や学校行事、児童会活動などを通して、他者との対話の場面を増やして互いの考えを認め合うなど、児童の自己肯定感を高め、幸福や生きがいを感じられる学校づくりを心がけ、家庭・地域と連携し、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。今後ともご協力の程よろしくお願い致します。